

科 目 名
企業経営と文化 Business Management and Culture

2年 前期 2単位 選択

河 口 和 幸

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1), 2-(2), 3-(3)

建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A 1	建築計画コース		
		建築構造コース		

【概 要】

ブレトンウッズ体制の崩壊と石油ショックという大きな歴史的な転換点を経て、戦後の世界および日本の経済・社会は大きく変質し、好不況の波も拡大している。現在は、トンネルの先になかなか明るさが見えない閉塞状態に陥っている。現在の経済・社会において山積している諸問題がどのような経緯で発生し、また、相互にどのような関連があるのかをできるだけ本質的なところに立ち返りながら考えていく。

【到達度目標】

現代において発生している諸問題について、その本質や発生した原因、相互関連性を理解する。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① オリエンテーション	
② 人間の歴史について（1）	歴史を動かしてきたもの（環境・宗教・食料等の側面から歴史をみる）
③ 人間の歴史について（2）	物事をより客観的にみることの大切さ
④ 豊かさと幸せ感（1）	無限成長の呪縛からの脱却、持続可能な社会と定常型社会
⑤ 豊かさと幸せ感（2）	幸せの価値観（マイクロ・ファイナンスやサルボタヤ運動等を例に）
⑥ 世界の中の日本	日本と日本人の自画像、日本はどのように見られてきたか
⑦ 理念国家アメリカ	理念国家アメリカの成り立ちと発想の原点
⑧ 格差社会	格差の現実、格差拡大をもたらしてきたものは何か
⑨ セーフティネット	格差拡大に対応してセーフティネットをどのように張り替えるか
⑩ 少子高齢化社会	少子高齢化を招いた原因は何か、少子高齢化に対応した社会のあるべき姿
⑪ 財政を巡る問題	財政と赤字国債、「小さな政府」と「大きな政府」
⑫ 官僚と中央集権体制	官僚と中央集権体制の特質と限界
⑬ 地方分権社会	地方分権がなぜ叫ばれているか、地方分権社会により地方の発展は可能か
⑭ 司法制度改革	裁判員制度と司法制度改革のあるべき姿
⑮ マスメディア	マスメディアの危機とマスメディア経営
⑯ 定期試験	学生自身による自己評価

【授業方法】

毎回の授業においては、レジュメや流れを図示したチャート等を配付する。また、テーマによっては新聞記事等を使いながらディスカッション方式を取り入れるほか、小レポートを書いてもらうことがある。

【学習到達度の評価】

ディスカッションや質疑の中で到達度を見ていく。

【評価方法】

- 1) テスト結果だけでなく、小レポート等を総合的に評価する。
- 2) 全授業終了後に学生自身による自己評価を行う。

【関連科目】

2年：技術と産業社会

【教科書・教材】

教科書は使わず、必要に応じてレジュメ等を配付する。

【履修上の注意】

新聞をよく読むこと。積極的な授業への参画・質問等を期待する。

（注）本講座は平成23年度以降は「現代の社会と経済Ⅰ」として開講される。